

浦口文治 うらぐちぶんぢ 英語・英文學者。明治五年二月十二日兵庫縣三田生れ、昭和十九年二月八日歿（八七一・九四）。號三廬。明治二十二年同志社普通學科卒。二十七年W・ウエストン四回目の日本アルプス登山の通譯として同行。翌年救世軍創設者の命を受けて來日したE・ライトの通譯に當る。三十年文檢の全科及第、爾後熊本済々黌中學、日本女子大學校、慶應義塾大學等で教へ、この間『英詩の栞』（明治二十九年刊）も處女出版。四十一年臺灣に渡り新設の全寮制學校で教師。五年後母校同志社の大學附學の伴ひ、英文科主任教授として赴任し、アメリカ留學を命ぜられ、ハーヴァード大學院に入学、學位を得て大正四年歸國。大正七年東京高等商業學校（のち東京商科大学）教授に轉じ、その後同志社大學、明治學院高等部、通信官吏養成所等に出講。邦譯の新機軸グループ・メソッドを創案し唱した（ことごとく知られる。著書に『實務社交現用英語』（大正八年二月二日北文館）、『グループ・メソッド』外國文學研究の近道（昭和二年一月十日文化生活研究會）、『ひげゆく想ひ』（第一集・昭和七年十月二十日八日警醒社）等その他、譯書にアーノルド、ジエイ、トオインビー著『支那と日本とに於ける近代』（昭和五年十月二十七日）啓明會事務所「紀要」）がある。

また、手塚竜磨著『頂きに想う』隨想と論考』（昭和五十九年十二月十日私家版）に「浦口文治の生涯と業績」が収載せられてゐる。

